

通夜・告別式のマナー

通夜・告別式でのマナーは知っておけばいざという時にとても役に立ちます。是非ご参考にしてください。

知っておきたい！ 冠婚葬祭豆知識

まず訃報を受けた時に確認すること

❗ 亡くなったのは誰なのか？

「義母の〇〇さん」など、関係をはっきりと！

❗ 喪主

弔電を送る時に必要になります。

❗ 宗旨

仏式・キリスト教式・神道などにより香典の書き方が違うので注意！

❗ 通夜・葬儀・告別式の日時・場所

お通夜・葬儀・告別式が行われる日時、場所を確認しましょう。

覚えておきたいお悔やみの言葉 それぞれの宗教にあった言葉

基本的な言葉例

「この度はご愁傷様です。心からお悔やみ申し上げます。」

「先日お見舞に伺った際にはお元気でしたのに残念です。心からお悔やみ申し上げます。」

仏式での言葉例

「心よりご冥福をお祈り申し上げます。」

神道での言葉例

「御霊(みたま)の安らかならんことをお祈り申し上げます。」

「拝礼させていただきます。」

キリスト教での言葉例

「安らかな眠りにつかれますよう、心よりお祈り申し上げます。」

※一般的に、キリスト教において、死は永遠の命の始まりと言われていいます。そのため、故人の死を悲しむような「ご愁傷様です。」や「お悔やみ申し上げます。」などお悔やみの言葉は不要とされています。

焼香の作法や回数

代表的な宗派での焼香の作法

天台宗……………3回であることが多いが特に定めがない

真言宗……………3回

浄土宗……………3回が多いが僧侶によって異なる場合がある

臨済宗……………回数の定めは特にないが通常1回が多い

曹洞宗……………回数の定めは特にないが通常2回が多い

日蓮宗……………3回

浄土真宗 本願寺派 ……1回 ※お香を目の高さまで持ってきません

真宗 大谷派 ……………2回 ※お香を目の高さまで持ってきません

真宗 高田派 ……………3回 ※お香を目の高さまで持ってきません

喪者と会葬者で宗教が異なる場合、どちらを優先すれば？

特に決まりはありませんが、一般的にはご自身が信仰する宗教の作法で焼香を行うことが多いです。

献花の作法

- 祭壇に進み、遺族に一礼して両手で花を受け取ります
※茎が左、花が右側にくるように
- 御霊前に進み一礼し、茎を祭壇に向けます
- 茎を祭壇側に花を手前にした状態で献花台にささげます
- ①(手を合わせ)黙とうし、深く一礼します
②前を向いたまま2～3歩下がり、遺族に一礼をして戻ります

玉串奉奠(たまぐしほうてん)の作法

- ①神職に一礼し玉串を受け取ります
②右手は上から枝の根元をつまみ左手は下から葉を支えます
- 祭壇の手前に進み軽くお辞儀をします
- 腕を胸の高さまで上げ、葉先が祭壇を向くように右手を引きます
- 右手と左手の位置を持ち替え、今度は根元が祭壇を向くよう右回りに回します
- ①玉串を両手で静かに机に置きます
②2回礼
③音を立てないように2回拍手
④もう一度礼をします
- 軽くお辞儀をし、元の席に戻ります